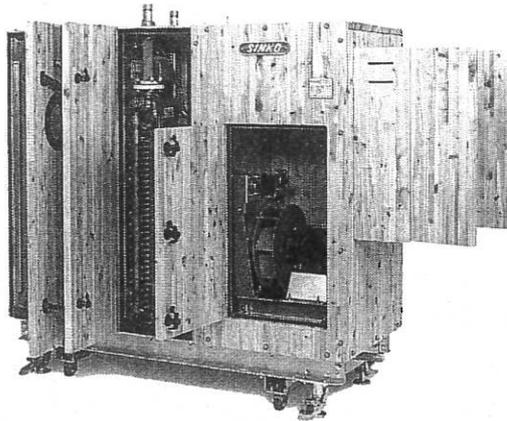


新晃工業

AHUの新コンセプト「Green AHU」
ライフサイクル全体を見直す
持続可能な社会の一翼担う存在に

新晃工業（本社・大阪市北區、社長・末永聡氏）は、日本初のAHU（空調機）、FCU（ファンコイルユニット）を開発するなど、多くの業務用空調機器を市場に送り出してきたフロントランナー企業である。深刻化する地球温暖

化問題を背景に、空調機器にもさらなる高効率化が求められる中、新晃工業は、2050年カーボンニュートラル社会の実現に向けて、AHUの新コンセプト「Green AHU」を策定した。



コンセプト・スタディモデル

その一つが製品化する過程すべてにおいて、「サステナビリティへ貢献する」というコンセプト・スタディモデルだ。「作る」運ぶ、使う、維持する、再生する」といったライフサイクル全体を徹底的に見直すこと

とで、メーカーの責任として環境に配慮した製品づくりを意図している。まず「作る」では、フレームレスやアルミ製架台を採用し、材料や溶接・塗装の削減を目指すほか、生産

工程にはCO₂フリー電力を使用。例えば「運ぶ」では、運送森林保全に伴って発生する負荷の少ないウイング車への積載が可能になる。現場で「Green AHU」は、空気をデザインする会社「新晃工業」が、製品のライフサイクルをデザインし直したことで誕生した、未来志向のAHUだ。見た目だけでなく、製品として担うミッションをも一新し、持続可能な社会の一翼を担う存在として、さらなる飛躍が期待される。

Green AHU

「Green AHU」は、空気をデザインする会社「新晃工業」が、製品のライフサイクルをデザインし直したことで誕生した、未来志向のAHUだ。見た目だけでなく、製品として担うミッションをも一新し、持続可能な社会の一翼を担う存在として、さらなる飛躍が期待される。

コンセプト・スタディモデルは、SINKOエア・デザイン・スタジオ（大阪府寝屋川市）とSINKOテクノニカルセンター（神奈川県秦野市）のショールームに一台ずつ展示されている。

新晃工業が提唱する「コンバージョン」の長寿命化「維持」をコンセプト「Green AHU」は、カーボンニュートラル社会最後の「再生」を目指す者にとって、業界生「はこれまでも問わず一見の価値があるだろう。」